

インキュベーション・マネジャーの紹介

事業に必要な知識、ノウハウ、経営資源などを幅広く提供し、時には相談相手となり、支援プログラムを活かしながら、事業を成功に導く人をインキュベーション・マネジャーと呼びます。

チャレンジオフィスあきたでは、事業経験豊富な経営アドバイスのプロが常駐し、事業成功へのプロセスを支援します。

大野 政人 インキュベーション・マネジャー(常駐)

氏名 おおの まさと 1950年生まれ



略歴

昭和48年茨城大学工学部精密工学科卒業

株式会社ニコン入社

一眼レフカメラ・電子カメラ・プリンタ・スキャナ・光学機器の新製品プロジェクト、海外業務の企画、社内ベンチャー「デジタルラボの運用」、中国企業での工場ライン立ち上げのため、技術・生産・調達業務指導等の業務に携わる。各プロジェクトリーダー、株式会社ニコン技術工房設計部長を歴任。

この間の国内外企業人とのつきあいの中から、幅広いネットワークを有している。

平成15年4月より、「チャレンジオフィスあきた(COA)」インキュベーション・マネジャーに就任。

(財)日本立地センターインキュベーション・マネジャー認定

(財)日本立地センターインキュベーション・マネジャー養成研修奨励賞受賞

秋田県マーケティング戦略集中支援事業審査委員

インキュベーション・マネジャーの思い

インキュベーション・マネジャーの仕事を一言で言えば、事業を起こそうとする方々・創業して間もない方々の伴走者です。共に考え・悩み、喜びを分かち合う存在だと思えます。そのために、経営・技術・販路等の事業全般の相談者であり、支援者です。そして、皆さんの笑顔を見る事が楽しみです。

創業をすると言うことは、「夢・信念の表現」、「やる気」、「地域貢献」ではないかと思えます。始めにこれらのことを自問してみたいと思えます。創業しようとする人は、さまざまな支援を受けることができます。ただ、心に留めておいて欲しいことは、事業とは「自己選択」・「自己判断」・「自己責任」と言うことです。

私自身も、いろいろな人たちに助けられここまでやってこられました。そこで得られた事は、人の言葉を借りますが、「お礼というのは、恩になった人だけに返すものではない。返すのは誰でもいい。困った人がおれば、救いの手をさしのべなさい。差し延べるのは、順送りなんだ。※1」と言うことにつきます。

そして、このような気持ちで皆さんの伴走者として事業を軌道に乗せるお手伝いをしたいと考えています。

※1) 佐藤 正明著 「望郷と訣別を」より抜粋

佐藤 善友 サブインキュベーション・マネジャー

氏名 さとう よしとも 1957年生まれ



略歴

昭和55年 秋田大学鉱山学部燃料化学科 卒業

昭和56年 (財)秋田県中小企業振興公社 入社 (現在(財)あきた産業振興機構)

平成13年 (財)あきた産業振興機構退社

秋田大学客員助教授 (平成14年3月まで)

中小企業総合事業団 IT推進アドバイザー

有限会社ジー・エフ・シー 代表取締役

ITコーディネータ・インストラクター

平成14年 中小企業総合事業団 中小企業大学校 登録研修指導員

中小企業・ベンチャー総合支援センター東北 常設アドバイザー

中小企業・ベンチャー総合支援センター東北 新規事業開拓支援専門員

平成15年 秋田市チャレンジオフィスあきた サブインキュベーション・マネジャー

中小企業総合事業団 中小企業大学校講師

中小企業総合事業団 中小企業大学校登録研修指導員

中小企業総合事業団IT推進アドバイザー

中小企業ベンチャー総合支援センター東北 常設アドバイザー

中小企業ベンチャー総合支援センター東北 新規事業開拓支援専門員

秋田県ITコーディネータ情報連絡会会長

私の支援のモットーは、「3年後の明日を拓くために、今日からでも実行できる具体的な項目を提示する」です。創業者の方は、事業計画書の作成だけでなく資金繰り計画、営業先の選定、営業方法、販売方法、各種申請書の作成方法等、さまざまな支援を必要としています。そこで、具体的な実行項目と優先順位を一緒になって考え、その結果を一緒になって評価・検討(モニタリング)し、着実に前進できるよう皆様の良きパートナーとして支援いたします。